

# 令和3年度 中心拠点病院の事業総括

国立成育医療研究センター アレルギーセンター  
大矢幸弘、福家辰樹、豊國賢治

# **中心拠点病院の事業**

## **～国立成育医療研究センター～**

- ・アレルギー疾患に係る医師に対する研修支援事業**
- ・アレルギー疾患患者や家族等に対する相談事業**
- ・アレルギー疾患医療診断等支援事業**

# 中心拠点病院におけるB研修

## 「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

### 令和3年度の動向

#### 令和2年3月30日

病院長・感染対策本部・教育研修センターより、全ての研修生ならびに**短期研修の受入れを中止**するよう通知

#### 令和2年度

アレルギー疾患医療中心拠点病院事務局より、全国都道府県拠点病院へ短期研修中止について連絡。その後**受入れを再開**するも参加キャンセル等により結果的に1施設のみの参加。

#### 令和3年度（今年度）

通常通り募集開始。14名の医師より応募あり（うち拠点病院5名）、4名は第6波などの理由で開催出来ず、計10施設より参加頂いた。

# 中心拠点病院におけるB研修

## 「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス (Web)	ジャーナルクラブ (Web)	(回診)	回診	(回診)
9:00	外来見学	喘息教室 (第4週)	食物負荷 (1名担当)	外来見学	外来見学
10:00	アトピー教室			食物アレルギー教室	乳児教室
11:00	食物負荷見学 または 外来見学			外来見学	外来見学
12:00	外来見学			外来見学	外来見学
13:00					
14:00	病棟/レクチャー	病棟/レクチャー /負荷試験予習	病棟/レクチャー	皮膚テスト/ 気道過敏性試験など 外来	病棟/レクチャー /負荷試験予習
15:00	ガイダンス (メンター)	食物負荷 退院時診察	食物負荷 退院時診察		
16:00	(回診)		(回診)		回診
17:00		輪読会 (Web)		病棟カンファレンス (Web)	ヒアリング①
18:00		(回診)			

	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス (Web)	ジャーナルクラブ (Web)	(回診)	回診	(回診)
9:00	食物負荷 (2名担当)	喘息教室 (第4週) (SLIT教室)	食物負荷 (2名担当)	外来見学 初診問診	食物負荷 (2名担当)
10:00					
11:00					
12:00					
13:00					
14:00	病棟/レクチャー /負荷試験予習	病棟/レクチャー /負荷試験予習	病棟/レクチャー /負荷試験予習	皮膚テスト/ 気道過敏性試験など 外来	病棟/レクチャー
15:00	食物負荷 退院時診察	食物負荷 退院時診察	食物負荷 退院時診察		食物負荷 退院時診察
16:00	(回診)		(回診)		回診
17:00		輪読会 (Web)		病棟カンファレンス 発表 (Web)	ヒアリング②
18:00		(回診)			

9-17時 研修必須

総合アレルギー科行事

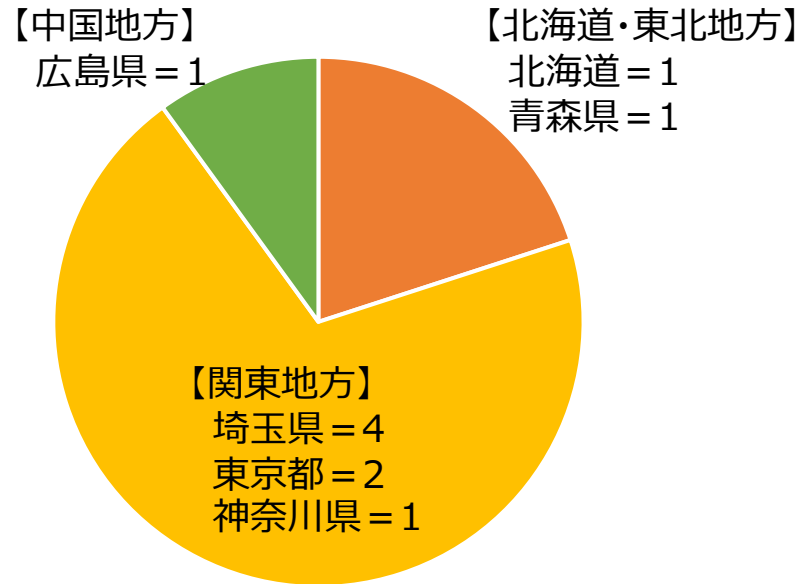
休憩

月・火・木・金  
疾患別初診  
教室参加後に本診

新型コロナウイルス感染拡大の状況下、  
全員が全日程を修了された

# 研修参加者の背景

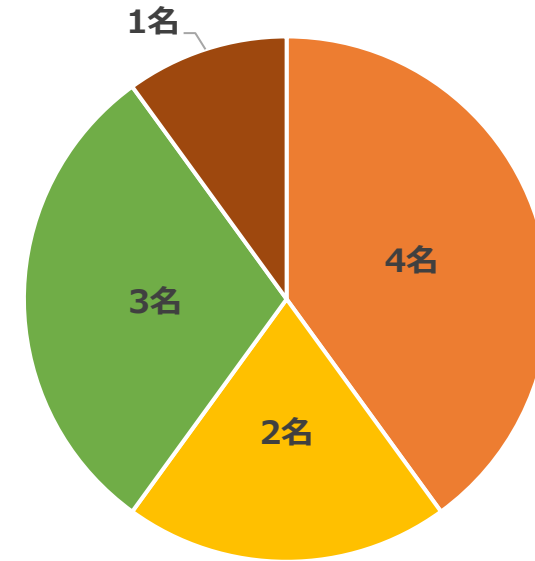
## 研修参加者 所属施設の所在地域



■ 北海道・東北地方 ■ 関東地方 ■ 中国地方

秋田県、山梨県、埼玉県より参加予定のところ  
COVID-19感染拡大のため中止

## 研修参加者の年齢



■ 31-35歳 ■ 36-40歳 ■ 41-45歳 ■ 46-50歳

<専門医資格の有無>  
小児科専門医 = 8名 (80%)  
アレルギー専門医 = 1名 (10%)

拠点病院医師にくわえ一般応募として14名の応募あり、**計10名**の医師が研修実施

# 研修結果の評価（1） 「知識・技能」

## 食物アレルギー

- 2A-1 食物アレルギー患者の問診を行い、経口摂取による即時型反応と、それ以外を区別して記録することができる
- 2A-2 特異的IgE・皮膚テスト・食物負荷試験の検査の精度の違いについて説明できる
- 2A-3 皮膚プリックテストを実施し、制限解除が可能な食品の選択ができる
- 2A-4 アレルゲンコンポーネントに基づいた診断ができる
- 2A-5 食物経口負荷試験（模擬）を行う患者へ、指示書での説明と同意書取得ができる
- 2A-6 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、入院指示簿、処置、投薬準備を行うことができる
- 2A-7 病棟で負荷試験担当看護師が準備している物品と補助業務内容を認識する
- 2A-8 1日2～3例の負荷試験症例の予診・食品準備・カルテ記載・病室の物品確認ができる
- 2A-9 1日2～3例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
- 2A-10 二重盲検法による食物経口負荷試験の実施を補助することができる
- 2A-11 即時型反応の可能性が低い食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-12 即時型反応の可能性が残る食品の摂取継続や制限解除をする場合の、患者への注意事項を挙げることができる
- 2A-13 食物経口負荷試験の結果が陰性であった食品の除去解除について、方針を提案することができる
- 2A-14 即時型反応を疑う症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる
- 2A-15 エピペン® の適応、適切な規格選択、一般的な使用のタイミングについて説明できる
- 2A-16 エピペン® について、同意文書取得・処方医登録の規定と、保険診療上のコストを理解する
- 2A-17 エピペン® の使用法の説明ができる

## アトピー性皮膚炎

- 2A-18 アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
- 2A-19 アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
- 2A-20 アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
- 2A-21 アトピー性皮膚炎のスキンケア法（石鹸洗浄、軟膏塗布）の指導ができる
- 2A-22 アトピー性皮膚炎の薬物療法と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
- 2A-23 プロアクティブ・寛解維持療法の概念について説明できる
- 2A-24 アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
- 2A-25 アレルゲン二重曝露仮説の理論を説明することができる

## 喘息・アレルギー性鼻炎

- 2A-26 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
- 2A-27 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
- 2A-28 気管支喘息の悪化因子を挙げられる
- 2A-29 フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者（保護者）に説明ができる
- 2A-30 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者（保護者）に説明できる
- 2A-31 気道過敏性検査を行うことができる
- 2A-32 重症度に応じた気管支喘息の長期管理薬を選択できる
- 2A-33 （気管支喘息の急性増悪予防のための）環境整備について指導できる
- 2A-34 患者の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患者（保護者）に指導ができる
- 2A-35 気管支喘息における急性増悪時の対応を患者（保護者）に指導できる
- 2A-36 舌下免疫療法について、効果、副作用、服用法の説明ができる

## 消化管アレルギー （本年度より追加）

- 2A-37 消化管アレルギーの分類を説明できる
- 2A-38 消化管アレルギーの診断法や鑑別疾患を説明できる
- 2A-39 消化管アレルギーの検査（経口負荷試験を含む）について説明できる
- 2A-40 消化管アレルギーの管理法について説明できる

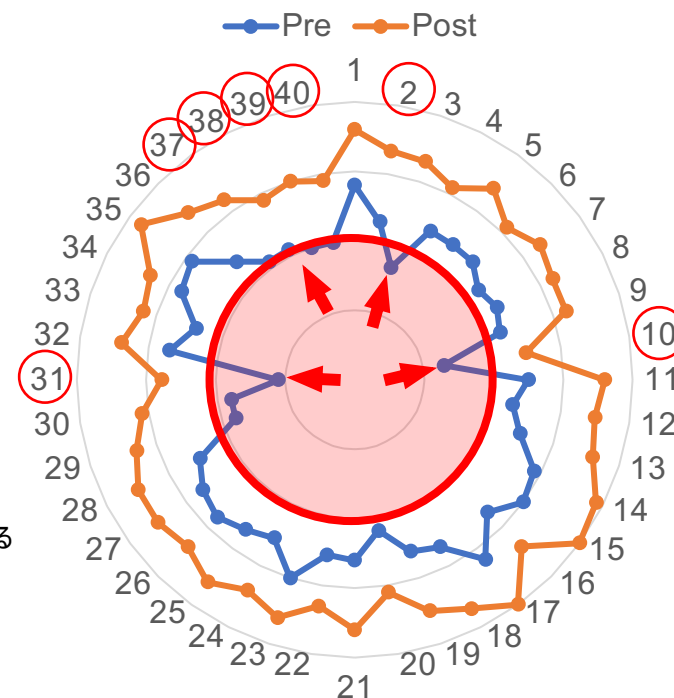
### 研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

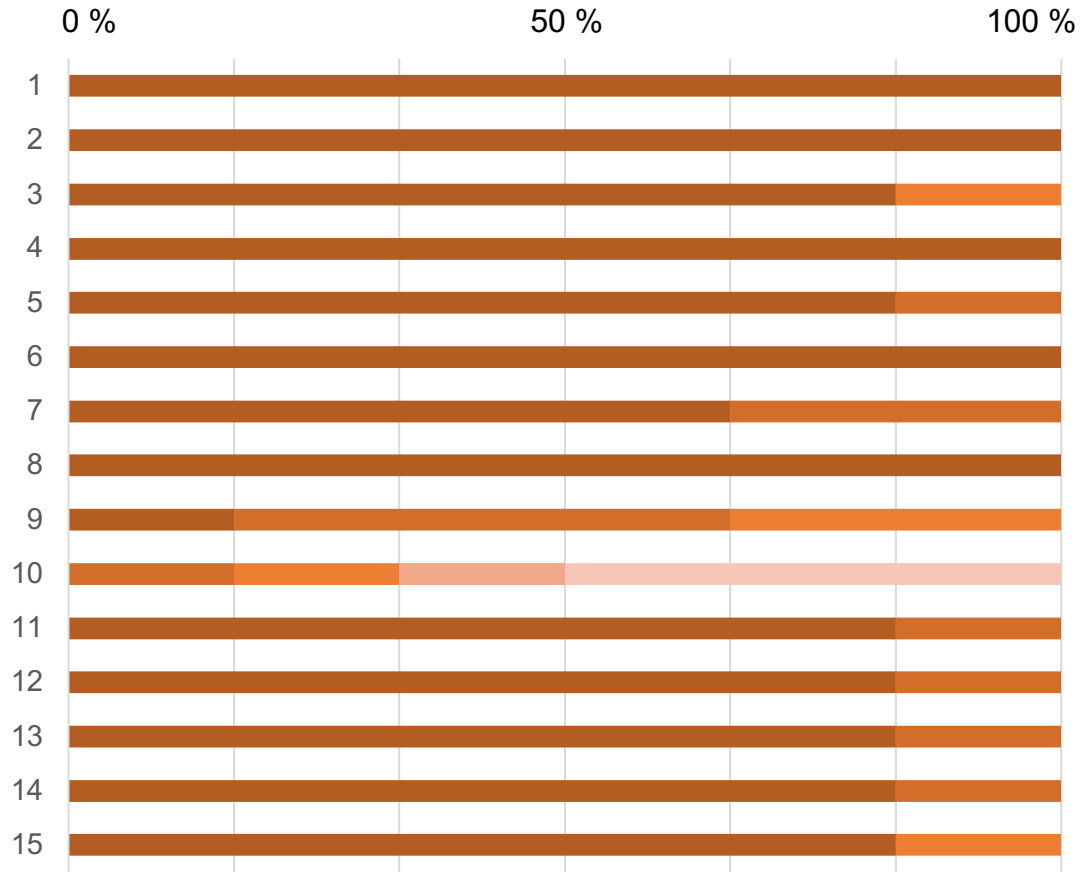
- ・反応（満足度）評価
- ・学習（知識スキル）評価
- ・行動（実際の行動変容）評価  
について参加者により評価

（研修前・終了時・研修6か月後）

### 知識や技能に関する40の評価項目

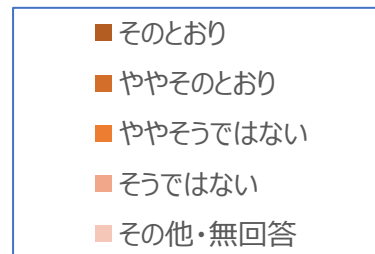


# 研修結果の評価 (2) 「プログラム満足度」

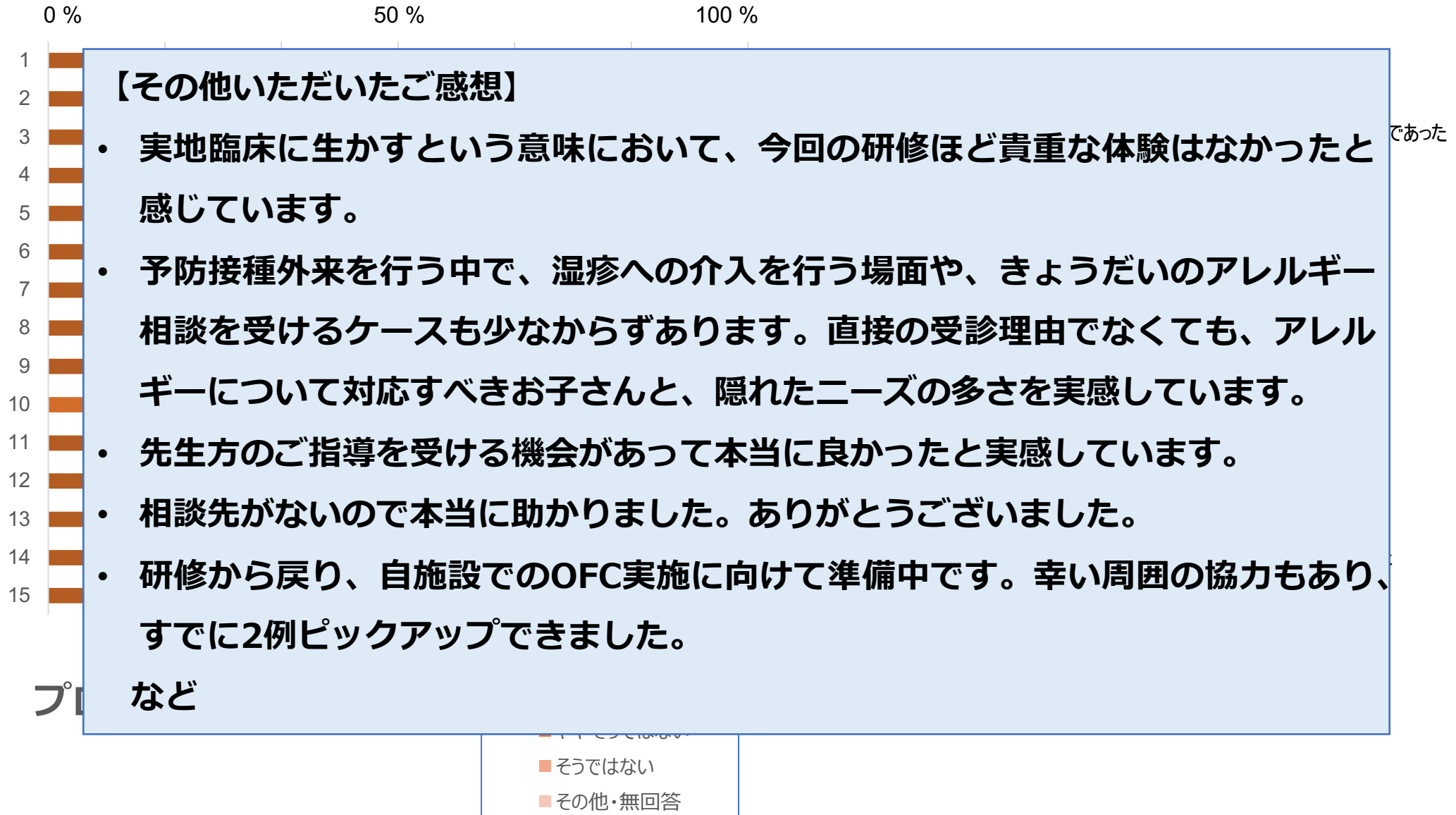


- 1 到達目標の項目数は、研修日数に対して適切であった
- 2 到達目標の項目は、自分のニーズに対して適切であった
- 3 研修各日のスケジュールの量(忙しさ・暇さ)はおしなべて平均化すると適切であった
- 4 患者向けの教室見学は有用であった
- 5 看護指導(患者向け教室での看護指導を含む)の見学は有用であった
- 6 病棟における実習(食物負荷試験など)の内容は十分であった
- 7 外来における実習(生理検査など)の内容は十分であった
- 8 本教育プログラム用に作成された教材の内容・量は適切であった
- 9 ワークシートの使用は有用であった
- 10 模擬症例を使つての実演学習は有用であった
- 11 到達目標の項目毎に担当指導医がつく制度は有用であった
- 12 メンターの機能は有用であった
- 13 ヒアリングの機能は有用であった
- 14 研修参加中の医療スタッフの態度は友好的で質問しやすい雰囲気であった
- 15 参加に関する事務サポートは適切であった

## プログラム満足度評価



# 研修結果の評価（2）「プログラム満足度」





# 動画研修資材作成への取り組み

限定付き動画配信により、短期研修参加者は自由に閲覧可能。継続的な学習効果を狙います。

- **研修機会の得られにくい手技に関する研修動画**

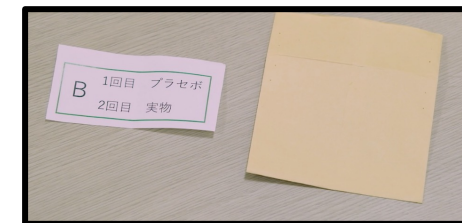
(ダブルブラインド法食物経口負荷試験、メタコリン吸入試験、FPIESコンセンサスガイドライン解説)

- **重要度の高い研修項目に関する研修動画**

(食物経口負荷試験、気管支喘息ガイドライン2020の改訂ポイント、アトピー性皮膚炎診療の基本、アナフィラキシー診療について、スパーサー+pMDIによる吸入手技の指導法)

- **アレルギーセンターJournal Club動画ライブラリー**

(トピックスをテーマに、最新情報を毎週センター医師が詳細に解説)



# その他の研修事業 (A研修)

## 第26回成育アレルギー臨床懇話会

### 国立成育医療研究センター 第26回アレルギー臨床懇話会のご案内

今回の特別講演では、アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会 委員長、日本医科大学皮膚科 教授 佐伯秀久先生より、アトピー性皮膚炎の病態と治療について、新規ガイドラインの内容を含めてお話しを頂きます。新しい治療薬が次々と登場する中、最新の話題を聴講できる貴重な機会です。

ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

**対象** 子どものアレルギーに関心のある医療従事者

**日時** 2022年1月27日(木) 18:45 ~ 20:30

**WEB開催** (Zoomウェビナーでのライブ配信)

**配信会場**：国立成育医療研究センター研究所2階 セミナールーム

**製品紹介** 18:45~19:00 『コレクチム® 軟膏0.5%・0.25%』 鳥居薬品株式会社

**開会の辞** 吉川 弘二 先生

**一般演題** 19:00~19:30 座長：笹本 明義 先生・津田 正彦 先生

『造血幹細胞移植によって難治性湿疹が寛解したWiskott-Aldrich症候群の1例』

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 犬塚 祐介 先生

『日常診療でのコレクチム®軟膏使用実例』

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 山本 貴和子 先生

**特別講演** 19:30~20:30 座長：大矢 幸弘 先生

『アトピー性皮膚炎の病態と治療-新規ガイドラインの内容を含めて-』

日本医科大学大学院医学研究科 皮膚粘膜病態学分野 大学院教授 佐伯 秀久 先生

**閉会の辞** 小林 俊夫 先生

※取得単位：日本アレルギー学会専門医制度2単位

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。  
先着500名様までとさせていただきます。

<代表世話人> 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 大矢幸弘  
<事務局> 福家辰樹 早瀬和子 (国立成育医療研究センターアレルギーセンター)  
〒157-8535東京都世田谷区大蔵2-10-1  
電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

主催：国立成育医療研究センターアレルギー臨床懇話会/鳥居薬品株式会社

令和4年1月27日(木)  
Zoomウェビナーによる  
ライブ配信

一般演題×2  
特別講演：  
日本医科大学皮膚粘膜病態学教授  
佐伯 秀久 先生

## アレルギー疾患医療従事者研修

### 令和3年度 東京都アレルギー疾患医療従事者専門研修のご案内

◆東京都アレルギー疾患医療専門研修◆

東京都ではメディカルスタッフを対象とし、アレルギー疾患の標準的な治療や、患者さんの日常生活や疾患管理の支援等に関する研修会を実施しています。  
今回は、アレルギー疾患医療中心拠点病院である当センターと、多くのアレルギー患者さんを診療されているクリニックの双方の立場から、アレルギー疾患の患者指導についてのお話をいただく予定です。「外用療法の指導をしているけど、これで正しいの…?」「子どもの食物アレルギーの指導で気をつけることは？」などなど、アレルギーの専門家が解説します！  
ぜひ多くのメディカルスタッフや先生方のご参加をお待ちしております。

◆対象：アレルギーに関心のある医療従事者

◆日時：2022年2月10日(木) 18:00 ~ 19:45  
Zoomウェビナーでのライブ配信(視聴無料)

#### ◆プログラム

司会進行：福家辰樹先生

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 総合アレルギー科

#### ①『アレルギー疾患の患者指導』：30分

原口 純 様 (国立成育医療研究センター看護師・小児アレルギーエドキューター)  
福島加奈子様 (東京シテイクリニック三田 看護師・小児アレルギーエドキューター)

#### ②『拠点病院での患者指導の実際』：30分

樺島重憲先生 (国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科)  
原口 純 様 (国立成育医療研究センター看護師・小児アレルギーエドキューター)

#### ③『クリニックでの患者指導の実際』：30分

世間瀬基樹先生 (東京シテイクリニック三田 院長)  
福島加奈子 様 (東京シテイクリニック三田 看護師・小児アレルギーエドキューター)

#### ④『パネルディスカッション』：15分

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

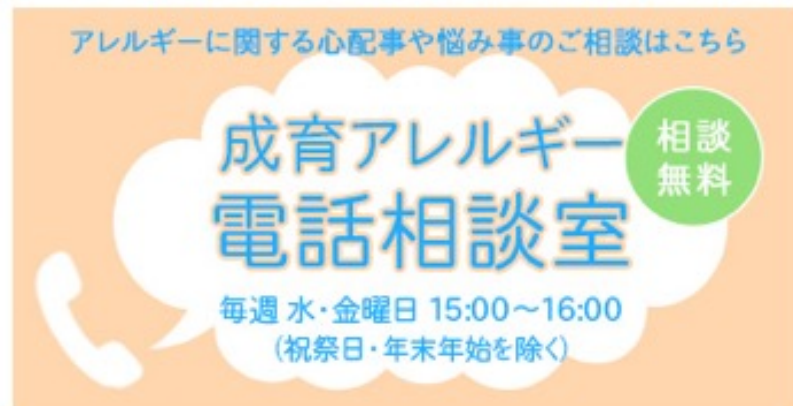
問合せ先：  
<事務局> 豊國賢治 福家辰樹 早瀬和子  
(国立成育医療研究センターアレルギーセンター)  
〒157-8535東京都世田谷区大蔵2-10-1  
電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

※東京都アレルギー疾患医療拠点病院として開催

# アレルギー疾患電話相談事業

## 【概要】

- アレルギー疾患に係る患者・家族からの電話相談事業
- 医師による、週2回、1回1時間の電話相談
- 相談時間は1回につき15分以内とする



- ✓専用電話回線を設置
- ✓通話内容は当センター「通話記録運用規程」に従い録音
- ✓相談内容は当センター「個人情報及び特定個人情報の保護に関する規定」に基づき記録、保管（専用ソフト開発：情報管理部）

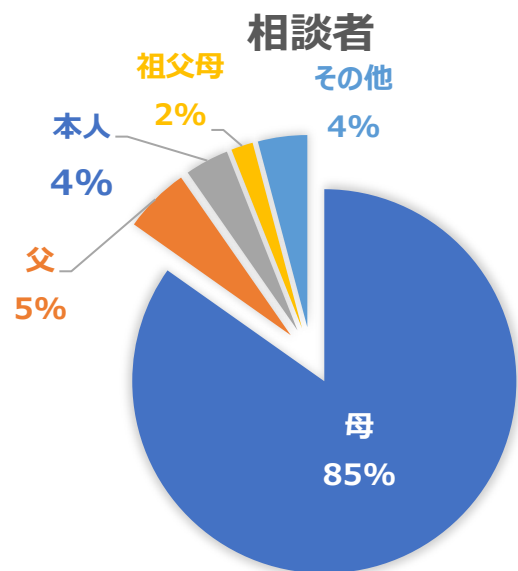
# 電話相談事業 2021年の実績



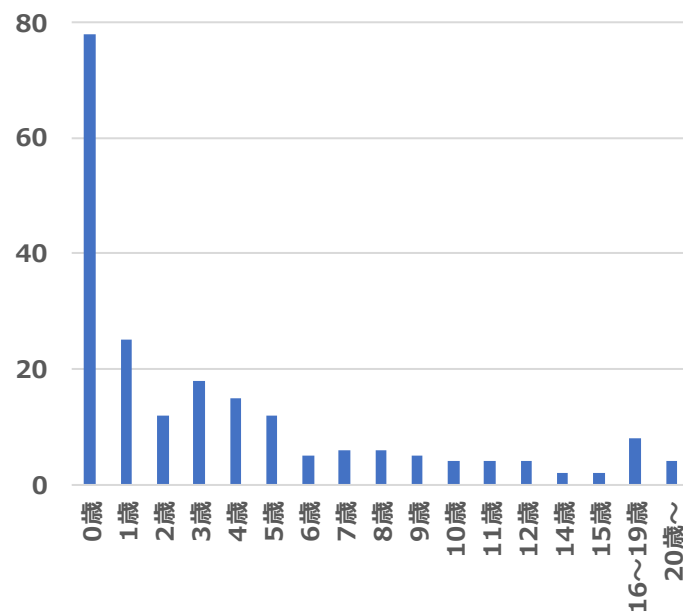
期間：2021年1月1日～12月31日の12か月間

相談件数：約 220 件

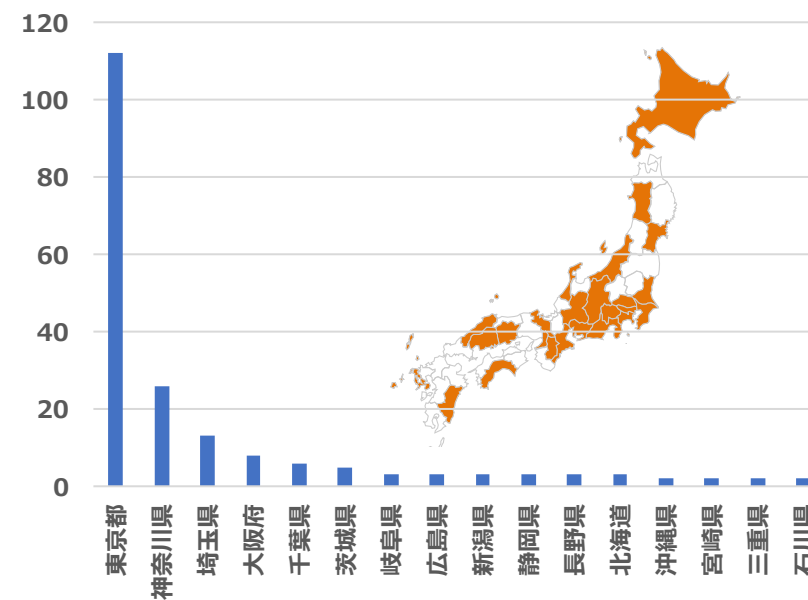
## 相談者の背景



## 相談したい方の年齢



## 相談者の都道府県



# 電話相談事業 2021年の実績

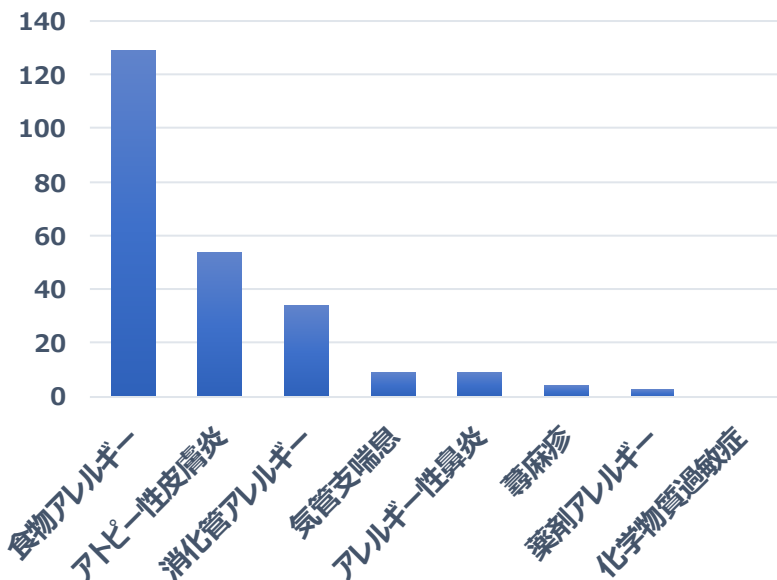


期間：2021年1月1日～12月31日の12か月間

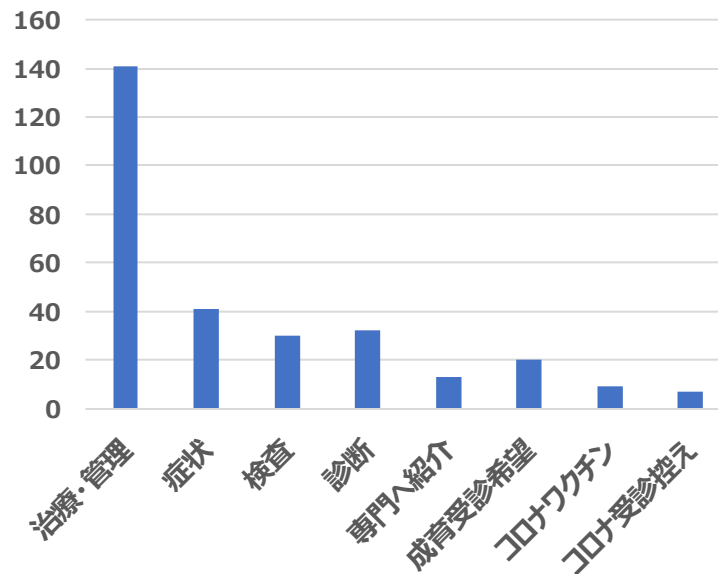
相談件数：約 220 件

## 相談結果

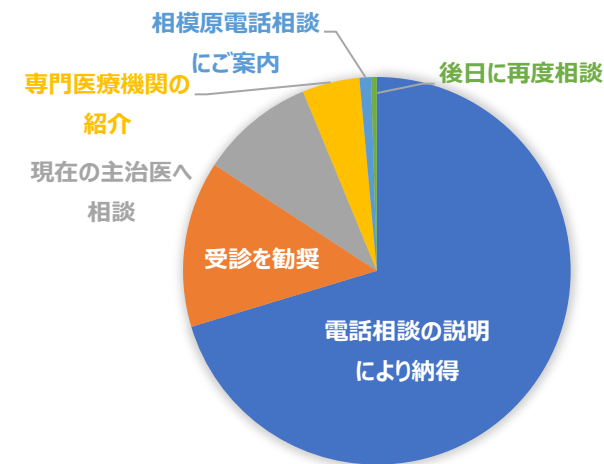
### 相談疾患



### 相談内容



### 相談結果



# アレルギー疾患診断支援 メール相談事業

## 【概要】

- 診断治療困難症例などに対する個別メール相談
- これまでに国立成育医療研究センターにおいてB研修を履修した医師に対して、治療方針や診療システムなどに関する相談をメールで受付
- 指導医含めた複数名の担当医師により数日以内に回答



## 【具体的な相談内容】

- 食物アレルギー児の喘息管理について（症例相談）
- カシューナッツOFCの負荷量について（症例相談）
- 重症牛乳アレルギーの管理について（症例相談）
- 好酸球性胃腸炎について（症例相談）
- 舌下免疫療法について（症例相談）
- 鶏卵FPIESについて（症例相談）
- 手湿疹について（症例相談）
- 舌下免疫療法について
- 加工食品のアレルゲン含有量早見表について

# 本年度を踏まえて

## **(A研修) 成育アレルギー中心拠点セミナーの開催**

- 毎月WEB開催へ (基礎・臨床の隔月)

## **(B研修) 小児アレルギー診療短期重点型教育研修**

- 実地研修参加者に対する、より充実した研修内容を構築 (Total Allergist研修)

## **(C・D研修) 専門修練研修**

- 都道府県拠点病院よりフェロー受入れあれば、総合アレルギー診療エキスパート育成、臨床研究論文・学位取得のサポート

# 本年度を踏まえて

## アレルギー疾患医療診断等支援事業の開催

- 短期研修に参加された医師への診療支援の拡充
  - 問い合わせフォームへの変更
  - 動画資料のアップデートを発信
  - 必要に応じて特殊検査等の実施

## アレルギー疾患診療連携ネットワーク構築事業

- 地域の皮膚科開業医等との重症アトピー性皮膚炎診療連携
- 地域保育所・学校嘱託医等を対象としたアレルギー診療支援と医療連携ネットワーク等の構築を検討